

式辞

袖ひぢてむすびし水のこほれるを春立つけふの風やとくらむ 紀貫之

立春も既に過ぎ、2月の寒さの中にも春の息吹を感じることのできる今日の佳き日に、兵庫県立小野高等学校第62回卒業証書授与式をかくも厳肅かつ晴れやかに挙行できますことは、誠に大きな喜びでございます。

なお、お忙しい中、PTA会長の大西真一様、同窓会長の井場紀年様を始めとする多数のご来賓の方々にご臨席賜り錦上華を添えていただきましたこと、厚くお礼申し上げます。

さて、ただ今、卒業証書を授与された312名の皆さん、卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。皆さんは107年の歴史と伝統を持った本校で学んだわけですが、本校の「明・浄・直」の校是のもと挨拶の励行、時間厳守、清掃の徹底の生活3原則を基本とする文武両道の精神を、この3年間で大いに身につけたことと思います。本校の教育は日本の古き良き伝統を受け継いだ日本の心が生きた教育であると思っています。堂々と自信を持って外の世界に向かって皆さんの船を漕ぎ出していただきたいと思っています。

先日、63回生の修学旅行に団長として生徒を引率し沖縄の宮古島に行きました。生徒たちは5、6人のグループに分かれて農家に宿泊し、農家のお手伝いをする体験をしました。私は農家にお礼を言うとともに生徒たちの様子を見るために、学

年の先生と農家回りをしました。その時、農家の方々が口をそろえて、「幾つかの学校を受け入れたがこんな生徒さんは見たことがない。礼儀正しく、時間を守り、計画性のある素晴らしい生徒さんです」と褒めていただきました。この時私は確信しました。小野高校の教育は間違っていない。おそらく日本の教育のモデルの一つが小野高校にあると確信しました。皆さんはそのような教育を受けてきたわけですから、何ら臆することなく自信を持って世の中に出て行ってほしいと思っています。

ところで、今、社会の情勢はアメリカの金融危機に端を発した不況の状態を引きずり、消費が落ち込み、デフレ状態からの脱却はなかなか困難であります。景気の回復については日本独自の回復は難しい状況にあります。3、4年前から世の中には市場原理に基づく成果主義、結果が全ての新自由主義による改革の嵐が吹き荒れましたが、私は何かうさんくさいものを感じていました。中身よりもとにかく目先の形を変えれば事足れりとする改革もありました。さらには「人の心は金で買える」と豪語する者まで現れました。物事の結果のみを見るのではなく、その過程、途中を見ることも大事なことではないかと思えます。更に言えば、結果を掴みきれなかった者の悲しみのようなものも理解することも生きていく上では必要なことだと思っています。

谷川俊太郎の詩に「かなしみ」という詩があります。次のような詩です。

あの青い空の波の音が聞こえるあたりに

何かとんでもない落とし物を

僕はしてきてしまったらしい

透明な過去の駅で

遺失物係の前に立ったら

僕は余計に悲しくなってしまった

透明な青い空を見上げていると悲しくなることがあります。何が悲しいというわけではありませんが、このような感覚は人間独自のものであり、もっとも大切な感覚ではないかと思います。このような心が人の気持ちを、人の悲しみを理解させるのではないのでしょうか。私は 18 才の時にこの詩と出会いましたが、この時に得た感動が今の私を突き動かしていることを感じる事が出来ます。卒業していく皆さんには是非とも人の痛みの分かるような人間になってほしいと思っています。人は一人では生きていません。仲間と共に生きています。今後社会に出れば様々なところで感じることでしょう。

アメリカ大リーグのシアトル・マリナーズのイチロー選手は今季シーズン終了後、次のように言っています。途中「タレント」という言葉が出てきますが、これは「才能」のことです。イチローは言っています。「いいチームを作るのは、いいタレント(才能)ではなく、いい人間。その価値観を監督も GM も持っているし、だからそういう人間が集まってきた。僕たちはプレーオフに出られなかったけど、

それでもいいチームだった」と。いい言葉です。こんな日本的な発想がアメリカに根付きつつあるのかと思うと嬉しい限りです。「いいチームを作るのは、いいタレントではありません。いい人間です」。心したいと思います。

卒業生の男子生徒諸君、いい男になってください。そして卒業していく女子生徒の皆さん、いい女性になってください。心から願っています。そのために多くの経験をしてください。ためらうのではなく、まずは踏み出してください。踏み出さないと何も始まりません。失敗は付き物です。やり直せばすみます。修正すれば問題ありません。しかしやらなかった後悔は悔やんでも悔やみ切れません。失敗を恐れず、ドンと踏み出してください。そうすれば皆さんの未来は、世の中の状況がどうであれ、開かれた、輝かしいものとなります。

私は最近、次のような詩を作りました。本校のホームページにも載せていますので読んだ生徒もいるかも知れません。「涙」と題する詩です。

突然、涙の出ることがありませんか

親のことを思い

家族のことを思い

彼女のことを思い

彼氏のことを思い

そして世の中のことを思い

人類のことを思い

地球のことを思い

ぼくらは一体どこへ行こうとしているんだろう

私たちは勿論、自分の幸せを手に入れるために生きていますが、自分のためだけではつまらないと思います。人のために、あるいは世の中のために生きることこそ本当の喜びや幸せがあると思います。皆さんには是非ともこのような一段高い人生を歩んでほしいと思っています。皆さんの活躍を心から祈っております。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。また、この3年間本校に対して物心両面に亘り、温かいご支援、ご協力をいただきましたこと、お礼申し上げます。生徒たちはこの3年間で随分と成長しましたが、本格的な社会人となるまで今しばらく温かいまなざしで見守っていただくようお願い申し上げます、式辞といたします。

平成22年2月27日

兵庫県立小野高等学校長 石原元秀